

箕輪町第 5 次振興計画の基本構想の策定にあたり

1 過去 10 年間の変化

※ 別添「10 年間の変化」のとおり

2 基本構想
(たたき台)

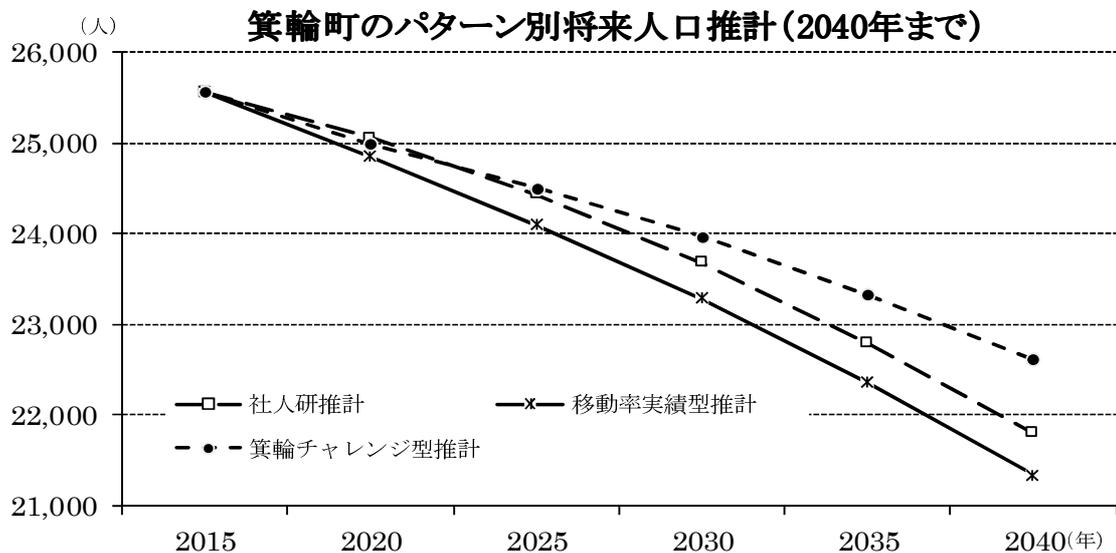
みんなで創る、未来につなぐ、暮らしやすい箕輪町
 ～ 人口減少する未来への挑戦・箕輪チャレンジ ～

(1) 人口減少の現状

項目	2015 年(人)	出典等
実績	25,560	長野県企画振興部「長野県の年齢別人口」 2015 年 4 月 1 日
社人研推計	25,838	国立社会保障人口問題研究所(社人研) 2013 年 3 月 推計

現状は、推計を下回る人口減少 (実績人口－推計人口＝△278 人)

(2) 将来人口の予測



(出典) 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局『地方人口ビジョン及び地方版総合戦略』の策定に向けた人口動向分析・将来人口推計について』をもとに箕輪町企画振興課作成

- (注)
- 2015 年人口は長野県企画振興部による平成 27 年 4 月 1 日人口を用いた。
 - 移動率実績型は、長野県企画振興部「長野県の年齢別人口」の 2010 年から 2015 年のデータをもとに移動率を算出した。
 - 箕輪チャレンジ型は、町の暮らしやすさを確保したことにより、20～34 歳の U ターン率が 15% 上昇し、2025 年までに合計特殊出生率・1.80 に達すると仮定して算出した。

現状のままでは人口減少が進行

今後の 10 年間で暮らしやすさを創り出す挑戦に踏み出せば、2040 年に格差

パターン別将来人口推計の年齢別人口と割合

	2015年		2025年		2040年	
	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
実績人口	25,560	100.0				
0～14歳人口	3,608	14.1				
15～64歳人口	15,022	58.8				
65歳以上人口	6,930	27.1				
社人研推計			24,438	100.0	21,806	100.0
0～14歳人口			2,923	12.0	2,432	11.2
15～64歳人口			14,040	57.5	11,583	53.1
65歳以上人口			7,476	30.6	7,791	35.7
移動率実績型推計			24,102	100.0	21,340	100.0
0～14歳人口			2,960	12.3	2,530	11.9
15～64歳人口			13,983	58.0	11,470	53.7
65歳以上人口			7,158	29.7	7,340	34.4
箕輪チャレンジ型推計			24,502	100.0	22,612	100.0
0～14歳人口			3,110	12.7	3,019	13.4
15～64歳人口			14,234	58.1	12,253	54.2
65歳以上人口			7,158	29.2	7,340	32.5

箕輪チャレンジに挑んでも、現在よりも総人口は減少するが
15歳未満人口は3,000人を確保

(3) 暮らしやすさについて

これまでに大幅な転入超過を達成 「選ばれし町」＝「暮らしやすい町」
今までの暮らしやすさを振り返り、未来へつなげる取組みが必要

○現在の暮らしやすさ(例)

項目	内容	住民満足度 度数
広々とした自然環境	豊かな自然とアルプス等の景観	3.11
安心・安全のまち	セーフコミュニティの認証取得	3.29
協働のまち	地区単位の協働事業を推進	3.19
医療体制	救急医療、高度医療の体制構築	3.40
支えあう地域福祉社会	災害時の支えあいマップを全区で作成	3.26
子育てに適したまち	保育園の待機児童ゼロ ひと味違うみのわの子ども育成	3.55
働く場のあるまち	昼夜間人口比率 1.0 以上を達成	3.02
道路等の都市基盤	町内の移動時間が車で 15 分以内	2.95
若者が住むまち	他市町村に比べて低い高齢化率	—

○部会別の今後の方向性

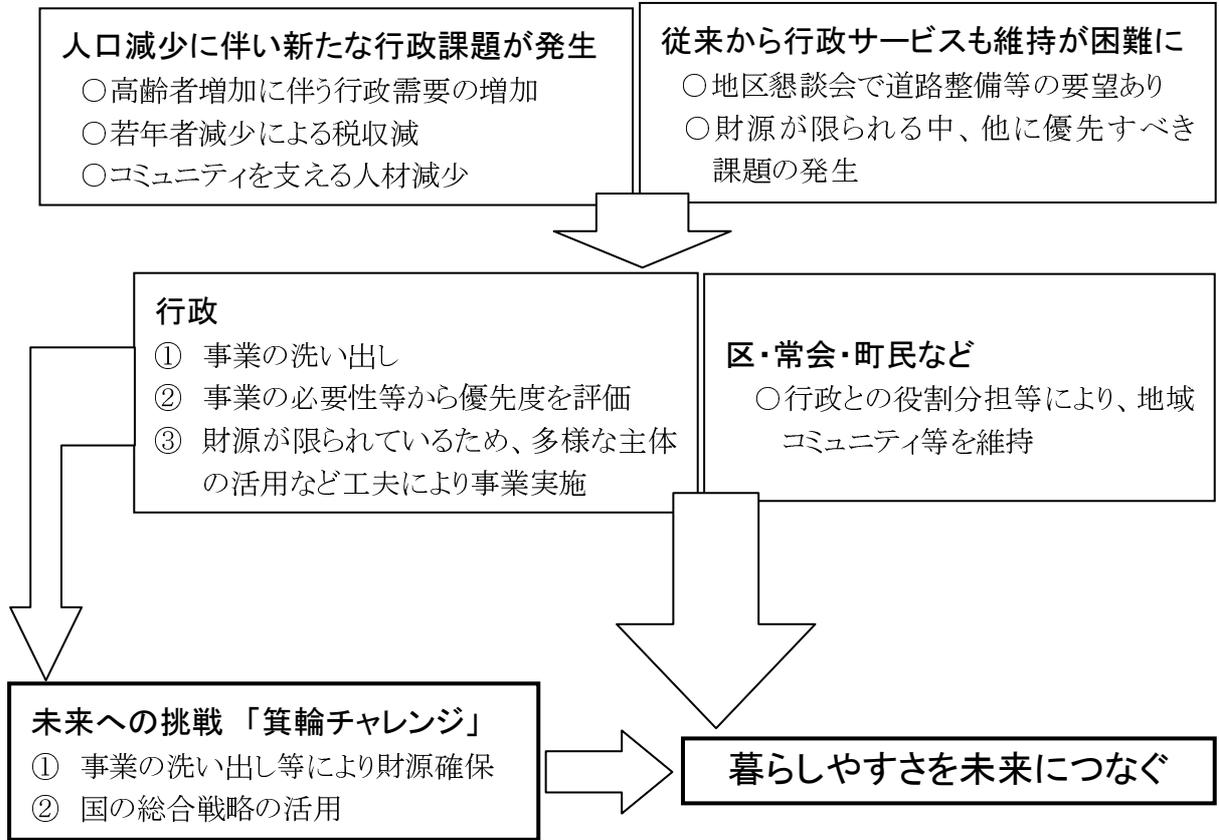
部会名	方向性
協働のまちづくり部会	箕輪町で地域コミュニティは暮らしやすさの保証 人口減少高齢化が進んでもコミュニティの維持
健やかに心豊かに暮らせる まち部会	高齢化が進展しても、暮らしやすい町の構築
ファミリー応援部会	出生数が減少する状況だが、子育てしやすい町 の構築
産業の未来を考える部会	暮らしやすい町のため働く場の確保
住みよい都市基盤整備部会	生活の便利さを確保する道路等の都市基盤整備
明日を担う地域人材育成部 会	未来を託す子供たちの学校教育の振興

○人口減少から起こる年齢別の課題(大切にすべき暮らしやすさを含む)

項目	課題等	担当部会
総人口の減少	行政等のサービスの維持	協働のまちづくり部会 住みよい都市基盤整備 部会
	コミュニティ活動の維持	
	安心・安全の町の確保	
	ごみ処理量の変化	
	上下水道の需要量	
	道路等社会生活基盤の整備	
	景観等、自然環境の維持	
15歳未満人口の減少	結婚・出産等の促進	ファミリー応援部会 明日を担う地域人材育 成部会
	産科医療の確保	
	育児支援等の見直し	
	保育園・学校施設のあり方	
	学校教育・社会教育のあり方	
15～29歳人口の減少	若者にとっての魅力づくり	産業の未来を考える部 会
15～44歳人口の減少	労働人口の確保	
45～59歳人口の増加	農業、工業等の産業振興	
60～69歳人口の減少	常会等地区活動の存続	協働のまちづくり部会 健やかに心豊かに暮ら せるまち部会 産業の未来を考える部 会
	農地や山林の維持	
70歳以上人口の増大	健康づくりの需要増大	
	高齢者の交通手段の確保	
	医療体制の確保	
	高齢者福祉の需要増大	

(4) 未来につなぐ暮らしやすさについて

今までと同じ方法では、未来に暮らしやすさをつなげることは困難



(5) 箕輪チャレンジ（人口増加政策）

町の暮らしやすさを追求した政策を実施
 期待される効果 ⇒ 子育て環境の充実による出生数の増加
 ⇒ 町の魅力創出による転入者の増加

○ 箕輪町の人口減少が進む主な要因

- 合計特出生率の低さ 町 1.48 < 郡 1.63 (2008~2012年)
- 20歳代人口を中心とした転出傾向

○ 人口増加への対応

地域に愛着を持つ人材の育成	産業振興による働く場所の確保	若者に魅力のあるまちづくり	交流の場の創出と結婚支援
---------------	----------------	---------------	--------------

○ 人口増加に向けた情報発信



3 論 点

- 人口減少は避けられないとしてよいか。ただし、若年者の定住等、人口増加への取組みを促進すれば、バランスのとれた年齢構成となる可能性がある。
- 今の箕輪町で暮らしやすさを感じるものはなにか。
- 税収減や新たな行政課題の発生が見込まれる中、箕輪町の暮らしやすさを未来につなげるために何が必要か。